

「歴史の謎はインフラで解ける」 から二題

一般社団法人 全日本建設技術協会 会長 おお いし ひさ かず
大石 久和



表題は筆者が土木学会会長時に京都大学の藤井聡先生や筑波大学の石田東生先生に加え、仲間たちとともに執筆して産経新聞出版から発刊した図書のタイトルである。財政のことなど堅い話が続いたので、今回はこの図書の中で紹介した小話を二つ紹介して、歴史を作り上げてきたインフラ整備に思いを致したい。

信長とインフラ

世上に流布している桶狭間の戦いは、圧倒的な兵力を持っていた今川義元軍に織田信長が奇襲を仕掛けることで勝利したというものであるが、本書が紹介したのは、領内経営に力を注いでいた信長は実は義元に負けなだけの実力を獲得していたというものである。

例えば、太閤検地頃のデータを見ても、信長の領地である尾張の石高は約57万石もあり、それは今川の領地である駿河・遠江・三河の合計石高の約59万5千石と互角レベルにあったのである。

兵力は石高で決定づけられていたことを考えると、信長は義元に遜色のないレベルの戦力を

有していたことになる。ということは、織田家は尾張の農地改革を積極的に進め、生産性の高い領地を有していたということであり、織田家歴代は用水事業や開拓、区画事業などを熱心に推し進めてきていたのである。

後に信長は領内で楽市楽座政策を進めたりして、経済・商業の重要性をよく理解していたといわれるが、それは農業政策においても同様であったのである。それは経済成長の重要性を理解できない日本の今の政治家のレベルをはるかに超えていると考えている。このことは、信長が道路をランク分けし、それぞれに道路規格を統一的に設けるなどしてネットワーク化したりするなど具体の事業を進めたことでも明らかで、他の戦国大名とは相当異なるレベルにいたと言えるのである。

信長は道路を「街道・脇道・在所道」と三つに区分し、それぞれの規格を定めて計画的に整備していった。街道は幅員6.5m、脇道は4.5m、在所道は2mとしたというのである。いわば国道・県道・市町村道という現在の管理体制のような区分を導入していたのだ。

このネットワークによって、商人たちの往来

が増え、商品流通が活発化して、今でいう経済成長が可能となったのである。織田信長がいかにも経済力を強化していたかは、戦国大名の中で唯一織田家だけが足輕を農業生産に従事せざるを得ない農民から切り離し、専業の傭兵軍団にすることができていたことでも明らかだ。他の武将の軍隊は農繁期には出動できなかったが、信長軍は季節を問わず戦闘できたのである。

この織田家歴代や信長の土木政策、インフラ重視策が天下統一寸前にまで信長を引き上げたのだ。時代が変わると行うべきインフラの内容も異なるが、経済政策の要として「皆の力で皆のために」というインフラ整備の重要性は時代を問わないと考えるのである。

小岩井農場

岩手県雫石町にある小岩井農場を知らない人はいないだろうと思えるほど、有名な民間農場であるが、この「小岩井」とは人名から取られたものであり、三人の名字から成り立っていることを知る人は少ない。

「井」は井上勝で、彼は幕末に伊藤博文らと共に5名でイギリスに渡り、井上以外は政治を学んだが、彼は近代土木技術を学んできたのであった。明治元年に帰国して以降は、明治の鉄道建設の先頭に立って整備の指揮を執ってきた。

その彼が内閣鉄道局長官であった明治21年に東北本線建設工事視察で岩手を訪れた際に、岩手山山麓の広大な荒れ地を眺めて感慨にとらわれ、次のように述べたというのだ。

「これまで十数年、鉄道敷設の事業に営々と携わってきた。そして、その間、わが国の文明

開化のためとは言いながら、美田良圃をつぶしてきたことも数知れない。(略)せめてこういう土地を開墾し、農牧の利用に供し、その埋め合わせをするのが国家公共のためではあるまいか」

この感慨を、ある宴席で日本鉄道会社の副社長であった小野義真と、三菱の社長であった岩崎弥之助に話したところ、岩崎がその場で出資を快諾し、その地に広大な農場を作ることを即決したというのである。従って、「小岩井」とは小野・岩崎で小岩、そこに言い出しっぺの井上を加えたネーミングということなのである。

こうして3,000haの農場が岩手県に誕生したのであった。この日本で最も美しい風景の一つとも言われる小岩井農場は宮沢賢治が愛したことでも有名で、次のような詩を残している。

すみやかなすみやかな
万法流転の中に
小岩井のきれいな野原や牧場の標本が
いかにも確かに継起する
ということが
どんなに新鮮な奇蹟だらう

「春と修羅」『小岩井農場』より

小岩井農場は、今現在三菱が所有し、東京・丸の内に本社があるが、岩手の農場は多くの人びとを引きつける観光地になっていて、農林・畜産業、種鶏・卵、乳製品、レストランなど多角的な産業も盛んに行われている。

小岩井農場は、土木の心が生み出した後世への誇るべき遺産となっているのである。